

クラウド型とオンプレミス型監視の比較

	クラウド型	オンプレミス型
停電対策	不要	サーバーにはUPS等の非常用電源装置が必要
耐震対策	不要	専用ラック等が必要
データの安全性 (データの冗長化)	不要	ハードディスクのRIAD構成等の準備が必要でコストアップになる。
障害対策	365日、24時間監視されている	サポートに連絡するもその間の録画は無し。
サーバーセキュリティ	不要	インターネット回線を利用する場合サーバー攻撃にさらされる
電気代、空調代	不要	サーバーの電気代の他、サーバー設置には温度管理が必要で空調用の電気代が負担となる。3kwhのエアコンで¥36000/月の経費増。
カメラの増設、撤去	クラウド担当者に連絡するのみ	サーバーは設置予定のカメラの台数、録画保存期間等を考慮の上決定されるため後日カメラを追加する場合ハードの追加もしくは入替えが必要
システムの更新	不要	サーバーメーカーは通常5年でサポートを打ち切るので、ハードに入替えが必要
運用ソフトの更新	不要	継続して使用するためには更新費用を定期的に払い続ける必要がある
システムメンテナンス	不要	専門知識を持った担当者が必要
モバイル端末からの操作	スマホやネットワークにアクセス可能なPCなどどこからでも可能	機能に制限あり
録画保存期間の変更	契約を変更し、即座に対応可能	不可(ハードの変更をとまなうため)
死活監視	24時間監視、問題発生時にはアラートを通報	機能無し